

判定順位番号 (あらかじめ赤で印字済み)  
 ※施設台帳の「施設の配置図」中の付番に対応します。

# 別紙5 記入ガイド (S造)

**鉄骨造建築物の応急危険度判定調査表**

整理番号: \_\_\_\_\_ 調査日時: \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 調査回数: \_\_\_\_\_ 回目

調査者氏名 (都道府県/No): \_\_\_\_\_

建築物概要

1 建築物名称: \_\_\_\_\_ 1.1 建築物番号: \_\_\_\_\_

2 建築物所在地: \_\_\_\_\_ 2.1 住宅地図整理番号: \_\_\_\_\_

3 建築物用途: \_\_\_\_\_

4 構造形式: \_\_\_\_\_

5 階数: \_\_\_\_\_

6 建築物規模: \_\_\_\_\_

調査方法: (1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。 (該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
②不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/300以下	2. 1/300~1/100	3. 1/100超
③建築物全体又は一部の傾斜	傾斜を生じた層の上の階数が1階以下の場合 1. 1/100以下	2. 1/100~1/30	3. 1/30超
傾斜を生じた層の上の階数が2階以上の場合	1. 1/200以下	2. 1/200~1/50	3. 1/50超
④部材の腐蝕の有無	1. 無し	2. 局部腐蝕あり	3. 全体腐蝕あるいは著しい局部腐蝕
⑤筋道の破断率	1. 20%以下	2. 20%~50%	3. 50%超
⑥柱梁接合部及び継手の破断	1. 無し	2. 一部分破断あるいは亀裂	3. 20%以上の破断
⑦柱脚の破断	1. 無し	2. 部分的	3. 著しい
⑧腐食の有無	1. ほとんど無し	2. 各所に著しい腐食	3. 孔食が各所に見られる
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが3以内の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①屋根材	1. ほとんど無被害	2. 著しいずれ	3. 全面的にずれ、破損
②窓枠・窓ガラス	1. ほとんど無被害	2. 歪み、ひび割れ	3. 落下の危険有り
③外装材 湿式の場合	1. ほとんど無被害	2. 部分的なひび割れ、隙間	3. 顕著なひび割れ、剥離
④外装材 乾式の場合	1. 目地の亀裂程度	2. 板に隙間が見られる	3. 顕著な目地ずれ、板破損
⑤覆板・機器類	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 落下の危険有り
⑥屋外階段・庇等	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 明瞭な傾斜
⑦その他 ( )	1. 安全	2. 要注意	3. 危険
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1以上ある場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済 (緑) 2. 要注意 (黄) 3. 危険 (赤)

コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。

調査者 = 安全確認協力員  
 立会い者 = 避難所運営員

記入不要  
 (あらかじめ印字済み)

調査表 (S造)  
 一部調査項目が違います。  
 文教マニュアル  
 を参照し調査して下さい。

文教マニュアル p 52・53 参照

文教マニュアル p 53~56 参照

**【落下危険物・転倒危険物の除去等】**  
 危険度判定前に可能な限り危険物の除去・固定、防護物の設置、注意喚起表示などの措置を行ってください (必要に応じて避難所運営員等に指示してください)。その状況に応じてA~Cランクを再判定し、総合判定してください。

**【コメント欄の記入】**  
 避難開設・運営の可否判定に影響します。特に判定結果が“要注意 (黄色ステッカー)”になる場合は、次の記入例を参照に、状況を詳細に記入してください。危険物の除去等の措置は、もれなく記入・報告してください。

**(記入例)** 構造躯体は「調査済み」判定とします。また落下・転倒危険物については、⑧⑨の項目で  
 ・ブロック塀が傾いているため注意喚起し、近寄らないよう措置をすることでAランクとなり得ます。  
 ・壁掛け時計が落下する危険性があるため、その部分を撤去することで、Aランクとなり得ます。  
 以上を条件に総合判定を「調査済み」とすることも可能です。

文教マニュアル p 57 参照

**1 文教施設応急危険度判定調査表 (鉄骨造)**

整理番号: \_\_\_\_\_ 調査日時: \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 調査回数: 1 回目

調査者 氏名: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

立会者 氏名: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_

建築物概要

1 施設名称 (TEL: \_\_\_\_\_) 1.1 建築物名称: 体育館棟

2 施設所在地: \_\_\_\_\_ 2.1 施設台帳整理番号: 1

3 建築物用途: 2. 体育館 判定順位番号: \_\_\_\_\_

4 構造種別: \_\_\_\_\_

5 階数: 地上 \_\_\_\_\_ 階 地下 \_\_\_\_\_ 階

6 建築物規模: 6.1 建築面積: \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> 6.2 延床面積: \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

7 建築年 (西暦): \_\_\_\_\_ 年

調査 調査方法: (1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。 (該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破損、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 ( )

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険有り
②不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/300以下	2. 1/300~1/100	3. 1/100超
③建築物全体又は一部の傾斜	傾斜を生じた層の上の階数が1階以下の場合 1. 1/100以下	2. 1/100~1/30	3. 1/30超
傾斜を生じた層の上の階数が2階以上の場合	1. 1/200以下	2. 1/200~1/50	3. 1/50超
④部材の腐蝕の有無	1. 無し	2. 局部腐蝕あり	3. 全体腐蝕あるいは著しい局部腐蝕
⑤筋道の破断率	1. 20%以下	2. 20%~50%	3. 50%超
⑥柱梁接合部及び継手の破断	1. 無し	2. 一部分破断あるいは亀裂	3. 20%以上の破断
⑦柱脚の破断	1. 無し	2. 部分的	3. 著しい
⑧腐食の有無	1. ほとんど無し	2. 各所に著しい腐食	3. 孔食が各所に見られる
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが3以内の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

RC造部分の被害 (鉄骨造の場合は⑧~⑩は省略する。またRC壁構造の場合は柱本数を壁の厚さに読み替える。)

	Aランク	Bランク	Cランク
RC造部分の被害 (鉄骨造の場合は⑧~⑩は省略する。またRC壁構造の場合は柱本数を壁の厚さに読み替える。)			
⑧損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. 有り	
被害最大大の階			
⑨損傷度Ⅴの柱本数_本 (調査率_%)	1. 1%以下	2. 1~10%以下	3. 10%超
⑩損傷度Ⅵの柱本数_本 (調査率_%)	1. 10%以下	2. 10~20%以下	3. 20%超
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが3以内の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが4以上

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度 (⑪~⑮は内観調査時に実施する)

	Aランク	Bランク	Cランク
⑪屋根・パラペット等	1. ほとんど無被害	2. わずかなずれ	3. 著しいずれ、一部落下
⑫窓ガラス・窓枠	1. ほとんど無被害	2. 歪み、ひび割れ	3. 落下の危険有り
⑬外装材	1. 目地の亀裂程度	2. 部分的なひび割れ、隙間	3. 顕著なひび割れ、剥離
⑭覆板・機器類	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜、移動	3. 転倒、落下の危険有り
⑮屋外階段・庇等	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜、移動	3. 明瞭な傾斜
⑯天井材・照明器具・吊り物・屋根面ブレース等	1. ほとんど無被害	2. 部分的なずれ、座屈	3. 落下の危険有り、一部落下
⑰内装材・間仕切り・屋根鉄骨定着部・床(階段または転倒)	1. ほとんど無被害	2. 目地ずれ、わずかな剥離、不陸	3. 顕著なひび割れ、剥離、顕著なだわつき・一部の脱落転倒
⑱本棚・実験櫃・屋内器具等	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜、移動	3. 収容物の破損・飛散や転倒の危険有り
⑳その他 ( )	1. 安全	2. 要注意	3. 危険
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1以上ある場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済 (緑) 2. 要注意 (黄) 3. 危険 (赤)

コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。

(参考) 設備の被害状況

	Aランク	Bランク	Cランク
①電気	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能
②給排水	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能
③ガス	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能
④通風	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能
⑤便所	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能
⑥空調 (暖房)	1. 使用可能を確認済み	2. 未確認または一部に支障有り	3. 使用不可能